

第4回海外医療支援活動 報告書 (2014)

◇キリバス共和国医療支援活動再開

平成26年9月23日～29日までの7日間医療支援活動を行いました。今回の医療支援活動は東日本大震災後、初めてで、NPO法人南太平洋眼科医療協力会を立ち上げて最初の支援活動になりました。震災直後は被災地支援（福島県、茨城県北部の眼科医療を支援）の為、3年間休止を余儀なくされましたが、2014年は4回目の訪問となりました。

キリバス共和国は南太平洋にある約30の小島からなり、約10万人が暮らす島です。医療は一般的に発展途上にあり、拠点病院にも常勤の眼科医がいない状態で隣国からのボランティアにより成り立っています。白内障など目の病気を放置するケースが目立っています。

今回は外来診療・手術治療を行いました。同国は、近視や遠視を矯正する習慣もなく、眼鏡の普及も遅れている為、日本国内で集めた不要眼鏡を持参し眼鏡処方を行いました。

◇結果／現地、治療の様子



◇結果／治療実績	
外来患者数	140名
手術	白内障17件+その他2件
その他	多数の眼鏡を処方

◇皆さまのお気持ちが直接「支援」となっています

タラワでの医療支援では、診察は勿論のこと、白内障手術を数多く行いました。手術機材も無事に到着し、業務に専念することが出来ました。来院時、一人で歩けず、支えとなる人が必要だった患者さんが、手術後には光を感じ、ご自身の足だけで歩ける様になるなど、医療支援を始めてから毎回見る光景ながら感慨深く、感極まるものがあります。

私どもは、このキリバスで4回目の医療支援活動を行い、現地の方々と交流を深めてまいりました。私たちを必要としている患者さんがいる現実に、医療支援・技術支援の在り方を今一度、考える時期ではないかと感じております。

来年も患者さんの素晴らしい笑顔が見られる様、私共は海外医療支援活動を続けて参る所存です。末筆ではございますが、引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。

以上

医療法人 小沢眼科内科病院

特定非営利活動法人 南太平洋眼科医療協力会